

○開会

○校長あいさつ

○会長あいさつ

○協議

- ・平成30年度「本校の学校経営計画」の進捗について
- ・平成30年度学校教育自己診断実施予定について
- ・進路について

(3年生の進路状況、職場定着支援について、進路の課題について、意見交換・その他)

○本日のまとめと終わりの挨拶

○諸連絡

◇協議

①平成30年度「本校の学校経営計画」の進捗について

(校長)

- ・後半の進路の部分に時間を多くとりたいと考えていますので簡単に説明をさせていただきます。現在の進捗状況によって、それぞれ◎・○・△を付けております。全体的に○以上が多く、良好な状況であると考えています。特に、委員会活動をとって生徒たちに良い習慣が身につけて行っているように感じています。挨拶や身だしなみなどについても外部の方からも良い評価を聞くことができます。このことは今年度の動きももちろんですが、近年積み重ねてきた者の結果が出ていると考えています。また、卒後の職場定着や防災については今後一層深く考えていく必要があると考えています。

質問・意見

(会長)

- ・地震や台風での被害はどうだったか？

(教頭)

- ・農園のポプラの立木が5本ほど倒れた。幸いブロック塀に架り校内で倒れるなどの被害はなかったが隣接する駐車場の車に当たってしまっている。また、小学部棟の屋上の鉄柵が倒れたが、こちらも普段立ち入らない屋上でのことので実害はなかった。他に校庭の木が折れたり倒れたりしたが、いずれも軽微な程度であった。他には、プールの管理棟の屋根材が剥がれる等破損があった。校舎には被害はなかった。

(事務長)

- ・体育館のガラスが割れたが周りの施設に比べると全体的な被害は軽微であった。

(校長)

- ・地震の際、通学途中の生徒が多く、引き渡しに少し時間がかかった。

## ②平成 30 年度学校教育自己診断実施予定について

(教頭)

- ・(昨年の診断用紙を示した上で) 現在、今年度分の質問内容を精査中です。今後、12月に実施・回収の上、分析をした上で第3回の運営協議会時に報告をさせていただき、いただいたご意見を次年度の学校経営計画に反映させる予定です。昨年度の反省としては、保護者向けアンケートの Q29「他校との交流」の項目について数値が低くなっているが、学校の実態を考えると質問内容自体があまり適切ではなかったと考えているため、内容を再検討し、実施したいと考えている。

### 質問・意見

(会長)

- ・地域との交流と言うことについて、いかがでしょうか？

(委員)

- ・交流と言っても今は摂津支援学校との交流位？もっといろいろな子どもと交流することは良いと思う。共生推進校との交流は良かったと思う。

(委員)

- ・わいわいガヤガヤ祭りへの出展もありますよね？そういう事も発信しては？

## ③進路について

(事務局)

- ・4期生の現在の進路状況の確認及び訂正(※資料参照)まだ実習等活動中の生徒もいる為、決定した生徒には周りに話をしないよう伝えている。

### 質問・意見

(会長)

- ・今年度の就職事情はどのようなになっているか？

(事務局)

・法定雇用率の上昇に合わせ、昨年ごろから企業からの問い合わせが増えてきている。また、大阪府の商工労働部と共同開催している学校見学セミナーでは、参加企業数が増えるとともに、それをきっかけでの繋がりが増えてきている。それを受け、早い段階から繰り返し実習に行くこともでき、生徒の意思決定を早めることができた。

(会長)

- ・地の利が悪いことを逆に利用して、企業に学校に来てもらうというのは良かった。平均すると何社位で就労が決まるイメージ？

(事務局)

- ・3年生からであれば1～2社、2年生からの積み重ねでは、平均3社程度かと思われる。多い子では5～6社に実習に行く生徒もいる。

(会長)

- ・2年生からの取り組みでマッチングがあっってきている？

(事務局)

- ・そうだと思います。

#### 【定着支援について】

(事務局)

- ・(スライドを使って定着支援について説明 ※資料参照) 集中支援期に当たる2年生時にマッチングのための実習をしっかりと行えるようにしたい。卒業生が増えてきた中でアフターフォローをどこまでやっていけるかは今後の課題。就業・生活支援センターと連携しやっていきたいと考えている。施設生は卒業後生活など変化が非常に激しく、特に支援が必要になるが、すぐに福祉が入れないこともあり、こちらも課題感を感じている。

#### 質問・意見

(会長)

- ・定着支援は昔から重要な課題。その中で、就労系の福祉サービスである移行支援事業所には新たな制度(職場定着支援事業)が創設された。

(委員)

- ・定着支援制度は出足不調と聞く。現段階では様子見の事業所が多いと聞いている。就労移行支援事業所から就労し6カ月間の定着支援期間を経て、改めて移行支援事業所と契約を結ぶなど手間がかかる。また、所得によっては利用料がかかるケースも。逆に就業・生活支援センターはすぐに登録ができ、お金もかからないため使いやすい。ただし、新しい制度と就業・生活支援センターの併用はできないようだ。

(事務局)

- ・事業所の方も今まで培ってきた体制があり、あえて使わないというケースもあるようだ。

(委員)

- ・特に知的の分野でいうと、就労した利用者が仕事帰りに施設によって、話をしたり相談をしたりというフォローは多くの所でやっているようだ。施設からすれば職場の生の情報を得られるし、元利用者にはメンタルヘルスになるため、両者にとって良い形となっている。

(委員)

- ・ 1人1人訪問してアフターフォローをするという形では人が足りない。数か月に1度学校で卒業生を招き、交流会を行うような形で卒業生を集めてフォローする体制を作らないと厳しいのでは。アフターフォローについてはどこであっても「完全にはできていない」が現状。大事なのは働き続けられる環境づくり。可能な限り自分は動かなくてもよい体制作りは大切。そうでないとつぶれてしまう。また、フォローを受ける企業側としても毎回訪問されると対応に負担を感じる企業もあるかもしれない。やはりマッチングが一番大切。

(委員)

- ・ 卒業生や職場の数・種類が広がっていく中で、持続可能なフォローと学校の役割を考えなければならない。

(委員)

- ・ 子どもたちには自分に合う所に就職してもらえればと思う。ただ、頑張りすぎてしまうことがあるので、そこを理解してもらえることが一番。

(事務局)

- ・ 各地域とのつながりは今後の課題。施設生は卒業後、どの地域に住むかわからない。福祉のサービスなどは地元の支援学校の方がつながりが強い。とりかえとしても、もう少し福祉のネットワークを作りたい。

(委員)

- ・ 施設生の退所後のフォローは難しい課題。どこに住むか分からないと次につなぐことができず、スムーズな移行が難しい。複数市エリア（北摂など）でのネットワークはやはり必要。就業・生活支援センターでは地域をまたいで連携を組んでいるところもある。

(会長)

- ・ 現在の在校生の居住地分布はどうなっているか？

(事務局)

- ・ 摂津・高槻・茨木・吹田で約7割。全部で17市町村に広がっている。

(会長)

- ・ 新しいサービスができたときなども地元の福祉とつながっていないと本人に伝わらないことがある。その生徒が卒業後に住むことになる場所の社会的資源（就業・生活支援センター、ハローワーク、福祉課 etc）について伝え、把握させておく必要がある。自治体によってもまったく事情が違うので情報収集は必要。在学中に地域についての学習をすることが大切。

## 【意見交換】

(会長)

- ・防災について、今後大きな地震が来ることが想定される。その中で、防災教育は非常に重要になると思う。今回の地震を教訓にすることが必要かと考えるがどうか？また、とりかいは避難所になっているのか？

(校長)

- ・非常時には体育館を開放し、摂津市運営の元避難所となることになっている。今回の地震では生徒たちの所在が様々で実習先でケガをした生徒もいた。生徒の活動の中に落とし込むことができると効果的なので、委員会活動などを通して生徒にマニュアルを作ることなども検討している。

(会長)

- ・例えば土日に学校行事をする時や、わざと暗くなるまで待ってから防災訓練を行っている学校もある。自治体などと協力をして登下校時や、水害時の訓練を行うことなども検討してほしい。

(会長)

- ・昨年度と比較し、遅刻者が大幅に減少しているのはなぜか？

(事務局)

- ・今の3年生が入学したタイミングから3回遅刻したら個別指導という制度を導入した。それにより、個々人の意識が高くなっている部分もある。また、土地柄バスがよく遅延し遅刻する生徒もいるが、社会人になってからは通用しないので、それも遅刻対象としている。

(会長)

- ・整理整頓や校内美化にもつながっているのでは？

(事務局)

- ・保健委員会でテーマを決め活動をしている。昨年は歯磨きをテーマに活動し、食後の歯磨き習慣を身に付けさせることができた。今年度は学校医の先生からのアドバイスもあって美化活動をテーマにし、活動している。

(委員)

- ・就職率や定着支援など先生方の努力が窺える。先ほど施設生の話が出たが、変化が激しい施設生に対してのフォローはどのようになっているか？

(事務局)

- ・住む場所が決まらない生徒について施設に措置延長を依頼はしている。

(委員)

- ・メンタル面のはけ口が気になる。スクールカウンセラーの活用はあるか？

(事務局)

- ・就労も含めたメンタル面のサポートとして上手い活用方法があればと思う。

(委員)

- ・聞かせてもらって、本当に良くやっているなと言う感想。自分とはとにかく挨拶が一番だと思っている。自分も小学生の見守りたいとして挨拶をしているが、挨拶を返してくれる子どもの顔は自然と覚える。顔を覚えられると可愛がってもらえることもあると思う。できるようにしてあげるとはとても大切だと思う。

(委員)

- ・定着支援はどこも悩み。自分の所だけで完璧には無理。また、どこが舵を取るのかも重要。卒業後、就業・生活支援センターにつながにしても、企業がよく理解していないケースもある。就労先企業の確認（どの程度知識やノウハウがあるのか）も大切。情報を企業に伝えることも立派なフォローになる。

(委員)

- ・卒業生の離職理由を分析し、分類化していくといくつかのカテゴリが見えてくる。その中で、学校が取り組めること、取り組まなければいけないことについて絞り込んで手を打つことが良いと思う。

(委員)

- ・子どものためにやれること（手続き）は大体やり終えたと思っていたが、本日の話を聞くと、まだまだやらなければならないことがありそうだ。相談していきたいと思う。

④諸連絡・終わりのあいさつ

以上